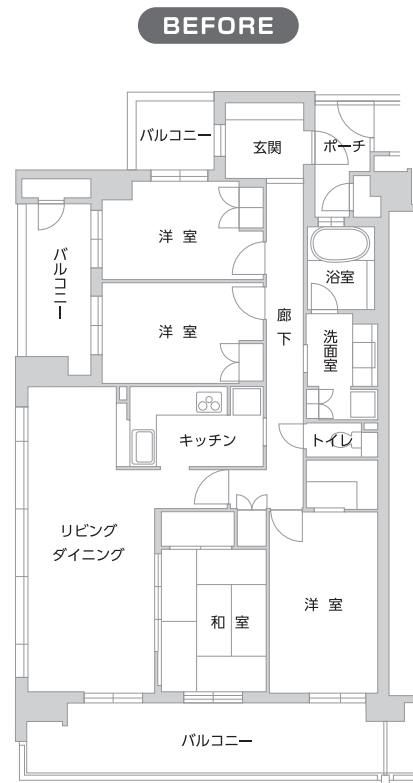




夫婦ふたりの暮らしを満喫。
住み慣れた場所を終の住処に。



専有面積約105㎡の4LDK。子どもたちが使っていた部屋が空室化。広さを活かして開放感と安心感のある間取りに変更し、ふたり暮らしを満喫したい。

AFTER



*プラン協力：積水ハウス株式会社
積和建設ハウジング事業部



living room

開放感のある空間づくりが、このリノベーションの大きなポイントのひとつ。広々とした心地よいリビングは、気がつけば古い友人たちが定期的に集う「いつもの場所」に。静かなふたり暮らしがほんのひと時、華やきます。

+

玄関ホールからリビングダイニングまでフローリング材を統一することで、実際以上に広さを感じることができます。



dining & kitchen

キッチンには十分な作業スペースと収納を確保。準備も後片付けもふたりで手早く楽しく、が夫婦円満の秘訣です。ダイニングには円卓を。子どもや孫が来て人数が増えたときに融通がききます。

+

住空間のほぼ中央にあったキッチンを移動し、バルコニーや洗面室への動線をつくったことで、家事効率が格段にアップ。



entrance hall

2つのバルコニーと一体化した、光と風を感じる玄関ホール。小さなテーブルセットを置いて「おうちカフェ」を楽しんだり、カウチに寝転んで本を読んだり。玄関や通路という機能を越えた、大人のゆとり空間です。

+

玄関のベンチや車いすに配慮した通路幅・トイレ手すりなど、歳を重ねても安心して暮らせる設計です。

walk in closet

1カ所に集約した計画的な収納で、整理や探し物がスムーズに。住まいをぐるりと回遊できる「隠れた動線」になっていることもポイントです。



bath room

浴室を大胆に移動できるのも、リノベーションならではの。1日の終わりに夜風を感じながらひと風呂。そんな長年の夢をかなえるチャンスです。



bed room

翌日の「おでかけコーデ」を考えたり、パソコンで趣味の写真を整理したり。気ままな夜更かしも、ほどよい距離感を保てば気兼ねはいりません。お互いの存在を感じながら、それぞれの過ごし方を楽しむ。シニア世代のイマドキな寝室です。

+

リビングに面した壁をガラスブロックに、扉を引き戸にすることで、柔らかな光と適度な風通しを確保。また、より独立性を高めたい場合は間仕切り壁で別空間に。インテリアもそれぞれの好みでコーディネートしやすくなります。



※掲載プランはサンプルであり、リノベーション可能な範囲・内容は住戸によって異なります。

新しい暮らし方・住まい方のイメージがふくらむ一方で、「マンションでどこまで希望がかなえられるかが分からない」といった不安の声も耳にします。たしかに、戸建て住宅に比べるとマンションには、構造や管理規約などによってさまざまな制約があります。でも、制約内であれば基本的には何をしても自由。事前によく調べる必要はありますが、キッチンやバスルームといった水回りの移動など、案外思い切ったこともできるのです。間取りや内装をがらりと変えて、住み慣れた場所を終の住処に。夫婦の夢をかなえるマンションリノベーションの一例をご紹介します。

「暮らし方が変わってきたシニア世代は「リノベーション適齢期」。」

子どもの独立やリタイアなど、ライフステージが大きく変化するシニア世代。夫婦ふたりだけの生活になって「暮らし方がずいぶん変わってきたな」と感じている方も多いのではないのでしょうか。一気に増えたふたりの時間。ようやく手に入れたひとりの時間。そんなこれまではなかった時間を快適に過ごせる空間がほしい。20年先、30年先も安心して暮らせる住まいに「つくり変えたい。そう思い始めた今こそ「リノベーション適齢期」です。

今号から新たにスタートする「イマドキ・リノベの処方箋」。家族構成やライフスタイルの変化に合わせた間取り変更や、わが家の個性を演出するインテリアのアイデアなど、マンションリノベーションのさまざまな可能性をお伝えしていきます。

第一回は、子どもが独立し、ふたり暮らしとなった夫婦の「これからの人生を彩る住まい」のご提案。

住み慣れた場所で、新しい生き方を始めてみませんか。



リノベーションとリフォーム、どこが違うの？

じつは明確な定義はないのですが、一般的な解釈としては、古くなった住まいを改修し元の状態に戻すのが「リフォーム」。機能やデザイン等を刷新し価値を高めるのが「リノベーション」。ちなみに英語の reformは主に人や組織に対して使われる言葉で、日本のように建物や家には使いません。

